

こんな暴言は許されない

朝日新聞 11月15日朝刊の風刺漫画のように、自民党は「数の力」により、なりふり構わず野党の質問時間減らしに躍起となった。その結果、与党はたっぷり増えた持ち時間を使い、安倍首相を擁護し、メディアや野党に対する批判に終始した。



同紙 11月16日夕刊「素粒子」から。

獣医学部新設4条件の入り口で時間切れ。野党質問に連携なく。さっさと都庁の摩天楼にこもった人が残す惨状。☆

自画自賛、自己弁護、責任転嫁。当事者だった自民議員は質問で政府を援護。三権分立を子供らにどう教えよう。☆

維新議員が他党議員を犯罪者呼ばわり。報道は根拠なく捏造と。トランプ流と「完全に一致」しそうな暴言状況。

自民党議員の加計学園疑惑「否定」のヨイショ質問も酷かったが、維新議員の暴言も目に余るものがあった。同紙 11月16日朝刊一学校法人「加計学園」の獣医学部新設問題について審議した15日の衆院文部科学委員会で、日本維新の会の足立康史衆院議員(比例近畿ブロック)が質問に立ち、自民党の石破茂元幹事長、希望の党の玉木雄一郎代表と立憲民主党の福山哲郎幹事長を名指しして「犯罪者だと思っている」と発言した。「総理のご意向」などと記された文部科学省の文書の存在を報じた朝日新聞の記事についても「捏造」と繰り返した。



足立氏は経済産業省の元官僚で、現在3期目。国会で民進党に対し「アホ」と発言するなどして懲罰動議を出されたことがある。加計学園の問題をめぐる朝日新聞の今月11日付朝刊の社説に対し、ツイッターで「朝日新聞、死ぬ」と投稿していた。

足立議員の発言要旨には、こんなことも。「李下で冠を正した安倍総理に対して、犯罪者たちが周りを取り囲んで非難しているというのが今の国会だ」

ことばの使い方とともに、安倍首相が「李下で冠を正した」とは、なんとも驚いた。15日の国会審議を見ていると、政治と政治家の劣化をあらためて痛感する。レポートにも書きたくないほどだが、記憶を記録しておかなくては。

(2017年11月18日)